

**R2 子どもの貧困問題に係る調査集計 (2/10現在)**

支援度 レベル	判 定 基 準	件 数								
		年 度 当 初			中 間 (9月末)			2/10現在		
<b>A</b> 要支援  子どもナビゲーターが支援にあたる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童、生徒、保護者、養育者が経済的問題で困窮していることが疑われる。</li> <li>・ 関係機関(福祉課、生活支援課(支所では市民生活課)、学校教育課、学務課、要対協、児童相談所等)とつながっていない。</li> <li>・ 手当、行政支援申請の手続きがなされていない。または、漏れ落ち等が見られる。</li> </ul>	<b>30</b>			<b>26</b>			<b>22</b>		
		小学校	中学校	総合支援	小学校	中学校	総合支援	小学校	中学校	総合支援
		13	16	1	10	15	1	8	13	1
<b>B</b> 経過観察  現状を見守る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 経済的問題で困窮が疑われるが、手当、行政支援を確実に受けている。</li> <li>・ 関係機関に等に接続するなど、支援を仰ぐほどではない。</li> </ul>	<b>226</b>			<b>238</b>			<b>256</b>		
		小学校	中学校	総合支援	小学校	中学校	総合支援	小学校	中学校	総合支援
		155	62	9	163	66	9	168	78	10
<b>合 計</b>		<b>256</b>			<b>264</b>			<b>278</b>		
		小学校	中学校	総合支援	小学校	中学校	総合支援	小学校	中学校	総合支援
		168	78	10	173	81	10	176	91	11

(参考：R元年度値) (217) (205) (213)

※ 中間報告以降、学校、関係機関から貧困の情報が入り、2/10現在で278件となった。追加の情報源の内訳は、学校からの相談電話、学校訪問の際の新規受付、関係機関からの情報提供であった

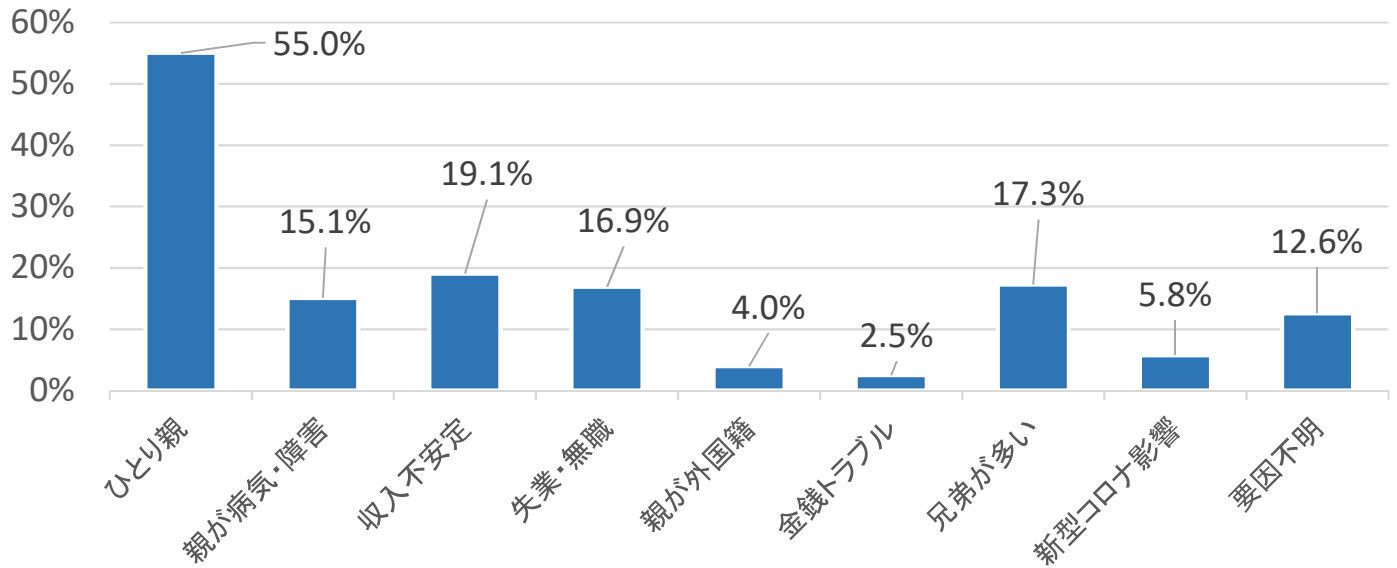
※ 必要な支援につながることで、A判定の事例が年度当初に比べ8件減った。8件のうち、子どもナビゲーターの直接の働き掛けによる事例は3件であった。

**4月1日～2月10日までの実績**

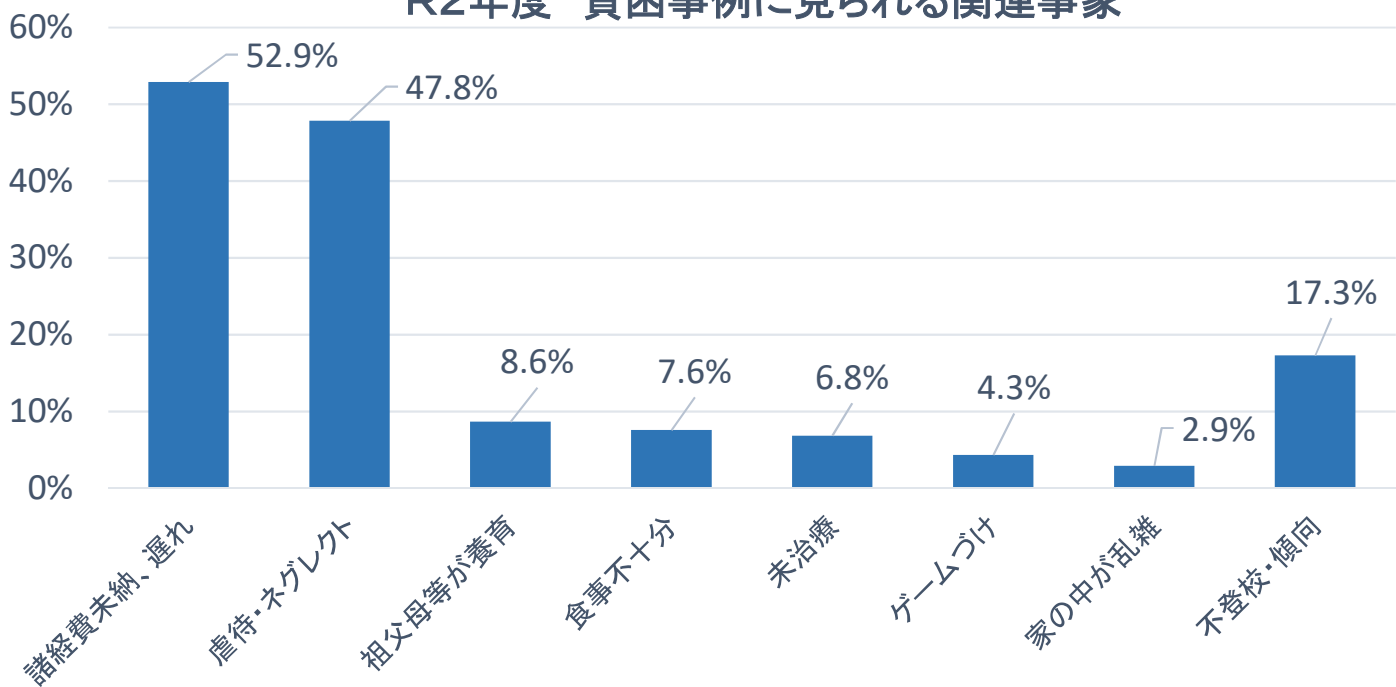
① 個別の事例に関わった延べ件数(助言、面談等)	57 件
② 学校からの相談電話 延べ件数	28 件
③ 保護者との面談回数(①の内数)	1 回
④ 子どもナビゲーターが関係機関との連携を働き掛けた事例数(①の内数)	21 件(27人)
⑤ ④のうち、子どもナビゲーターの働き掛けにより、A判定(要支援)からB判定(経過観察)へ改善した事例数	3 件
⑥ 継続対応中の事例数(①の内数)	10 件(18人)

④の例  
 ・ 一家の収入を支えていた父が病気で入院した際、就学支援の手続きに向けて助言し、手当受給につなげた。  
 ・ 学校経費の未納が続く保護者と面談し、これまでの未納分の納入を促すとともに、今後の納入計画について確認した。

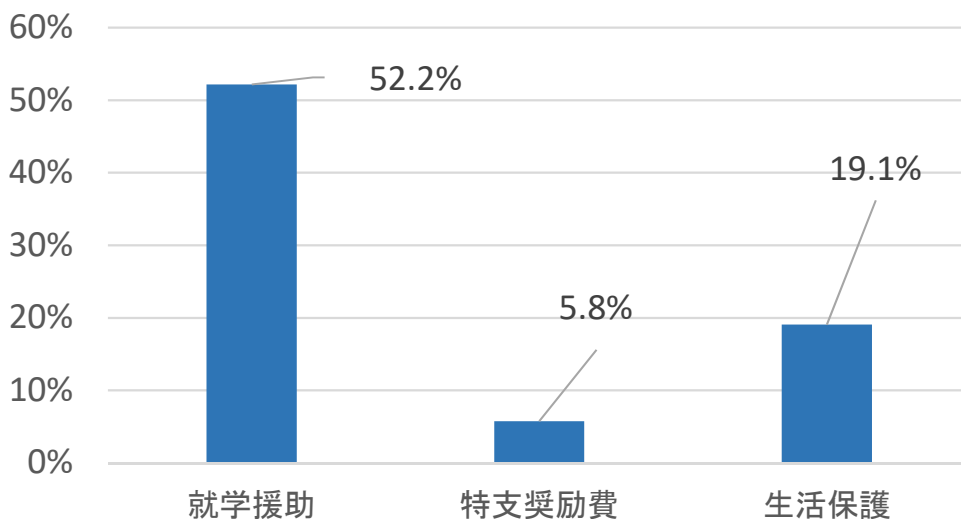
R2年度 貧困事例に見られる環境要因(複数選択あり)



R2年度 貧困事例に見られる関連事象



R2年度 貧困事例の子どもが受けている支援策



事例総数  
278件